

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	49	学校名	静岡県立島田高等学校	校長名	後藤 昇太
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	自己評価	成果と課題
ア	生徒の高いころざしを育成し希望する進路の実現を図るために、ICTを活用しながら授業外学習と連動した質の高い授業を創造する	・予習、授業、復習のサイクルを意識して取り組んだ生徒70%以上	・予習・授業・復習のサイクルに取り組んだ生徒42.0% (1年27.4%、2年34.2%、3年64.5%)	B	「あてはまる」「あてはまらない」「どちらでもない」という選択肢に変わり、「やや、あてはまる」という選択肢が無くなったため、数値は大きく下回った。予習、授業、復習のサイクルは大切であるため、各教科や担任を通じて引き続き定着を促していきたい。
		・スタディサプリを学力向上のために有効に使えたと感じる生徒80%以上	・有効に使えたと感じる生徒38.2% (1年40.2%、2年46.6%、3年27.7%)		スタディサプリに関しては、あくまで学習補助ツールとしての位置づけで、生徒の自主性にゆだねているところもあるため、学校目標にふさわしいかを検討し、来年度目標を設定していきたい。
		・授業への主体的な取り組みを意識する生徒70%以上	・授業に主体的に取り組んだ生徒87.7%(1年84.1%、2年89.7%、3年89.4%)	B	・生徒は授業に主体的に取り組んではいるが、今後は家庭学習時間を増やす取組みを考えていきたい。
		・職員1人2回以上の授業見学	・授業見学週間以外に校内外の研究授業の見学を含めると2回以上の授業見学はできた。		・授業見学は必要だが、職員の多忙な状況を考慮しタイミングや内容を検討していきたい。
		・ICT活用に向けてのマニュアルを作成し研修を年2回以上	・ICT活用の全体研修を2回、職員会議後のICT研修を2回実施した。		・来年度はICT活用研修2年目になる。授業改善につながるよう研修内容を充実させたい。
		・土曜補講受講率70%以上 ・4年制大学進学志望者のうち、国公立大合格30%以上	・土曜補講受講率64.1% (前期73.6%、後期54.6%) (1年63%、2年52%、3年77%)	A	・土曜補講受講率は64.1%と目標に70%に満たなかった。補講の目的や実施方法などを検討し、生徒の主体的な参加を促していきたい。
		・進路関係について主体的に考えるこ	・進路関係について主体的に考えるこ		・より多くの生徒が主体的な進路選択ができるよう、3

	とができた生徒 90%以上	とができた生徒 77.2%~94.7%		年間を見通した進路指導を 検討していきたい。
	・しまこう学問探究 ナビ満足度 90%以上	・しまこう学問探究 ナビ満足度 76.9%~90.8%		・学問探究ナビは16大学の 講座を開講することができ、 進路選択に有効的であった。
	・年間5回以上の面 談実施	実施した。	A	・教員と生徒・保護者、教員 同士のコミュニケーションが 大切。
	・放課後補講、土曜 補講に意欲的に参加できた 生徒 80%以上	放課後補講 87.6%、 土曜補講 85.7%。		・計画的に開講、実施できた。
	・主体的な進路選択 が出来たと実感する生徒が 80%以上	83.70%		・常葉や神奈川の給費制合格 で満足せず、最後まで挑戦 させたい。
	・平日2時間以上、 休日3時間以上の 学習達成生徒 60%以上	アンケートから当 てはまると答えた 生徒 18.5%	B	生徒の実状にあっていない 目標だった。平日、休日と区 切るよりも、1週間で合計15 時間などの目標のほうが生 徒の実状にあうのではない かと思う。教員側の指導、声 掛けの甘さもあった。
	・課題居残り後未提 出1名以下	指導後は提出をし て帰っているので 1名以下にはなっ ている。		目標は達成したが、居残り 指導対象者が平均10名程度 (多い時は40人近く)いる。 この人数を減らし、課題を やりきる姿勢や受験にむけ て取り組む姿勢を改善させ る必要がある。
	・学年通信発行 12 回以上 ・修学旅行で視野が 広がる生徒 90%以上	9回発行(2月6日 時点) アンケートから当 てはまると答えた 生徒 88.4%		目標数値には到達できな かったが、十分な数値だと思 う。来年度は「どのように視 野が広がったか」など具体 的にイメージできる質問に していったほうがよい。
	・週末課題未提出 生徒 10%以内	週末課題未提出 生徒 7.7%	B	・未提出生徒の指導に一学 期は教室を二つ使うことも あったが、2学期以降数が減 り、2~3学期は未提出者 平均15人だった。
	・1日平均の2時間 以上の学習時間達 成生徒 60%以上	学習時間達成生徒 55.5%		・学習習慣がなかなか定着 しなかった。フォーサイト 手帳も継続して活用できな かった。
	・学年便り年10回 以上の発行	学年便り年13回		総合的な探究では地元企業 の先輩による講話や調べ学 習、発表などを通して問題 解決に取り組んだ。進路だ

様式第3号

					より、学年だよりを通じて進路につながる情報を提供した。
イ	人として正しく生きるために、自律した生活態度の育成を図り、多様な価値観に対応した規範意識を涵養する	・身だしなみ検査を各学期1回以上実施	・各学年各学期に1回、合計3回実施	B	・検査で指導される生徒はほぼないが、日常生活で気になる生徒への指導を一層充実していきたい。
		・自転車安全指導カード昨年度比半減	・イエローカード指導 昨年度・・・113件 本年度・・・75件		・指導件数は減少しているが、必ずしも実際の違反や苦情の減少につながっているわけではない。生徒本人の自覚促進と具体的な方策を考えていきたい。
		・フォーサイト手帳によるPDCAサイクルを確立させたと回答する生徒80%以上	54.6% 定着しなかった。	B	・毎日書かせるだけでも教員の負担が大きい。PDCAサイクルを確立させるには更にかんりの意識の高さが求められる。別の方法を探る。
		・充実した高校生活と実感する生徒80%以上 ・頭髪服装検査時、指導対象の生徒5名以下	80.9% ほとんどの生徒は問題ない。規範意識もあるが、だらしなさは何とかしたい。		・問題行動等に冷静に適切な対応ができたので最後まで落ち着いて学年であった。 ・一部生活習慣が崩れた生徒はいたが、他の生徒は流されることなく良好であった。 ・正副担任が朝できるだけ早く教室に行ったので、生徒の生活が落ち着いた。
		・六月祭など学校行事に主体的に取り組む生徒95%以上	アンケートから当てはまると答えた生徒75.3%	A	目標数値には到達できなかったが、十分な数値だと思う。教員側が生徒に働きかけや、意見の吸上げ等を行い、生徒がより主体的に取り組めるような環境づくりを進めていきたい。
		・服装、頭髪で指導される生徒0	特に大きな問題はなかった。		世の中の多様化の問題もあり、指導基準が難しくなることが考えられる。学校全体の共通認識を持つことが課題である。
		・イエローカード50枚未満	21枚(2月6日時点)		昨年に比べると減少している。大きな事故もないが、交通指導員に指導されない場所でも違反はあると思う。少しでも減らすための声掛けを継続する。
		・8:20昇降口通過者99%	8:20昇降口通過者84.1%		A

様式第3号

					て過ごす生徒が増えた。
		・頭髪服装検査を学期に1回以上実施	頭髪検査学期1回実施		清潔な身だしなみができ、イエローカードの数も減少した。
ウ	豊かな人間性、国際感覚、他者との良好な関係づくりを身につけ、現代社会で逞しく生き抜く力を養う	・1部活1つ以上のボランティア活動実施	ボランティア実施部活動 【運動部】 男女テニス・男女バスケット・野球・サッカー・卓球・陸上・バドミントン・剣道 【文化部】 放送・茶道・吹奏楽・家庭・写真	A	・各部活動及び個人で多くの生徒がボランティア活動に参加することができた。島田高校部活動全体で活動できることを考えていきたい。
		・学校生活が充実していると答える生徒85%以上	・学校生活が充実していると答える生徒85%以上 【全生徒約80%】		・行事、授業、進路、部活動など様々な分野で生徒が充実感を持てるように学校全体で取り組んでいかないといけない。
		・相談できる相手がいる生徒90%以上	【1年生：84.1%】 【2年生：81.5%】 【全体82.8%】	A	・自己解決できている生徒に対して、質問内容が合致していない可能性がある。来年度は質問内容を精査して調査したい。
		・全校の年間図書貸出数2000冊以上	・貸出数1500冊未満	A	校舎移転に伴い、図書館に足を運ぶ生徒は減ったが、委員会を中心に各種イベントを盛り上げ、読書に親しむ姿勢が見られた。授業での図書館利用回数を増やしたり、朝の自習時間に読書を推奨したりするなど、身近に本がある環境づくりを継続したい。
		・演劇教室に満足した生徒90%以上	・概ね満足した生徒95%以上		初めて本格的な演劇を鑑賞した生徒が多く、驚きとともに様々な感動を口にしていた。
エ	適正かつ効率的な予算執行による学習・教育環境の整備や、地域・関係外郭団体との協働により安全で安心な学校づくりを目指す	・地域防災訓練の参加率60%以上	参加生徒の割合：22.1% 実施されず：20.1% 不参加理由あり：20.1% 不参加理由なし：42.7%	C	目標値に届かなかった。訓練自体が実施されなかったところもあり、部活動などの影響も考えられる。
		・業務の効率化・平準化・適正	効率化61% (▼13%)、平準化		C

様式第3号

		化が図られた職員 75%以上	35%(▼13%)、適正化 39%(▼22%)。		人員配置など、更なる業務 改善に取り組む必要がある。
		・施設、設備に起因 した校内事故の発 生件数0	・施設、設備に起因 した校内事故の報 告はなかった。	A	・日常的な巡回と教職員か らの報告により迅速に対応 できた。仮設校舎は予想外 の不具合が度々あるため、 今後も職員全体で情報共有 し、安全・安心な学校づくり を目指す。
	・申請書類の期限内 提出率95%以上、差 戻し率5%未満	・期限内提出率 100%、差戻し率 2.6%	・申請書類の期限内提出率、 差戻し率とも目標を達成し た。来年度はオンライン申 請が始まるため、さらに分 かりやすい説明資料を提供 できるよう検討する。		
	・学校経営予算の執 行率99.5%以上、外 郭団体の予算執行 残額25万円未満	・学校経営予算執 行率は概ね99%、 外郭団体の予算執 行残額は20万円程 度の見込み。	・限られた予算を、学校運営 のために適正に執行でき た。外郭団体予算について も、在籍している生徒のた めに有効に執行できた。		
オ	丁寧な生徒指導・ 進学指導を垂範す る進学校として教 育活動・教育実践 を的確に発信する とともに、連携接 続のための情報収 集・情報交換を密 にする	・ホームページ更新 年間150回以上	ホームページ更新 年間80回 公式インスタ掲載 一日1回	B	学校紹介において校訓を軸 に、本校のキャリア教育の 充実を強調した点は中学校 から好評価を得た。本校の 伝統的な魅力と新しい教育 活動をバランス良く広報し ていくことが今後の課題で ある。
		・中学校訪問2回以 上	中学校訪問（重点 校）年2回実施		
		・学校の様子を知る ことができた保護 者70%以上	1年63.2%、2年 81.2%、3年71.4%で あった。	A	全体としては、目標値を達 成したが、学年によって差 があった。デジタル化の推 進を含め、更なる改善を図 っていきたい。